

## 男子マラソン

### ● 雪辱 平田さんが奪還

マラソン男子は平田治さん(王寺町・TEAM奈良)が2年ぶり4度目の優勝を飾った。

「これまでの中で一番うれしい。昨年のリベンジが果たせた」と喜ぶ。3位の成績だった第1回大会から連続出場し、第2回から3連覇したが、前は3位に甘んじた。「前は4連覇を意識して力んでしまったことが敗因」と振り返る。故障や体調の崩れもあったようだ。

今回はベストコンディションで臨めたが、何よりもコースを知り尽くした6年間の経験がものをいった。「前半をジョギングでもやるつもりでしっかり抑えることが鉄則のコースなんです」

中盤まで抑え気味に走り、アップダウンのきつい29<sup>キ</sup>地点で、食い下がる岡田健志(奈良市)の様子を窺って勝負に出ると、一気に引き離し、そのまま2位に5分以上の大差をつけてゴールした。

4連覇の夢が破れた後、カミが消え、自分のマラソンを見直す1年間だった。フォームも改造した。王寺町職員として6年前より責任が増え、練習時間もままならないが、「奈良マラソンはホームゲーム。負けるわけにはいかない」ときっぱり。今や奈良マラソンの顔になりつつある。



## 女子マラソン

### ● 不屈 田畑さんが逆転

マラソン女子は田畑郁恵さん(三重)が2時間53分57秒で3年ぶり3度目の優勝を果たした。

「これで受験生の娘にいい報告ができる」と喜んだ。10<sup>キ</sup>までは前回の覇者・山口遥(神奈川県)がリード。例年になく気温が高く、田畑はこまめに給水を繰り返して体力を温存。前半のアップダウンで足にダメージを受けたが「自分のリズムを崩さなければチャンスはある」と諦めなかった。

かすかに見える山口の姿を射程距離に入れたのが30<sup>キ</sup>過ぎ、ここから差を縮めて32<sup>キ</sup>付近で抜き去りそのまま一気にゴールまで駆け抜けた。だれも追走してこなかった。やはり後半はこの暑さで誰もが体力を奪われてしまい、余力が残っていなかった。実業団を経験し、その後、結婚。3人の子供を出産し、32歳でゼロベースからマラソンの練習を再開。現役時代に比べれば少ない週4回、月間300<sup>キ</sup>程度。家事、育児、仕事をしながらの練習は限りがある。「それでも周囲の支えがあり、ありがたい」と言う。

前日、中学3年生の娘から励ましのメールが届いた。「早く知らせたい」と足早に更衣室へと急いだ。母の優勝報告は受験生の娘さんにとって何よりの応援メッセージになったことだろう。



## 男子10<sup>キ</sup>

### ●熟知 板倉さんの勝因

男子10<sup>キ</sup>は板倉太一郎さん(愛知)が34分00秒で3年ぶり2度目の優勝を飾った。前を走る3人がコースを間違えて4番手にいた板倉がトップでゴール。「柵からぼたもち。心苦しい」とすまなそうだった。

毎年、この大会を目標に、体をピークになるように調整しているという。5度目の出場で「コースを熟知していたから間違いが起こらなかった。それがメリットになったのかなあ」と思わぬ勝因に苦笑い。それでも優勝の二文字はうれしい。

家に帰れば2人の娘の父親として奮闘。仕事、子育て、そして体力づくりと、忙しい日々を過ごす。

今大会で「確実に選手のレベルが上がっている」と実感。早くも来年の大会を見据えていた。



## 女子10<sup>キ</sup>

### ●独走 東野さんが雪辱

10<sup>キ</sup>女子は、前回2位の東野由美子さん(大阪市)が優勝。前回の自己タイムより23秒速い大会歴代2位となる38分05秒の好記録で雪辱を果たした。

「前回優勝した人が出場しないと聞き、狙っていたのでうれしい」。レース後、東野は会心の勝利に笑顔を見せた。

2<sup>キ</sup>付近でトップに立った後は、ほぼ独走状態。「ペースを落とさないように男性選手の後をついて走った」と振り返る。

奈良マラソンはフルを含めると3回目で、優勝は他の大会も含めて初めて。「アップダウンはきついけど、応援が多くて走りやすい」。前回と同様、キャラクターの帽子を被っての力走で、「知らない人にも応援してもらえた」と喜んでいた。

